

令和 8 年 2 月 17 日

大阪市総合教育センター  
教育振興担当 実践研究グループ  
首席指導主事様

研究コース	
B グループ研究B	
校舎コード (代表者校舎の市費コード)	
511012	
選定番号	220

代表者	校舎名:	中津小学校
	校舎長名:	三辻 文子
	電 話:	06-6371-2047
	事務職員名:	和田 享子
申請者	校舎名:	大阪市立中津小学校
	職名・名前:	校長 三辻 文子
	電 話:	06-6371-2047

### 令和7年度 「がんばる先生支援」報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究 (2年目)
2	研究テーマ	<p align="center"><b>自らの学びを創ろうと主体的に学び続ける学習者を育む国語科学習 ～学びのつながりを重視して～</b></p>			
3	研究目的	<p>1 大阪市小学校教育研究会国語部の事業として申請する。 2 大阪市全域へ研究の取り組みを発信することで、本市教員の授業改善・授業力向上を図る。 ① 作者のものの見方・考え方、主張、論理に着目した学習教材分析を行い、単元を構成する。 ・筆者のものの見方・考え方、主張は何か。それはどのように述べられているか。 ・筆者の主張や題材に関する関連図書資料はあるか。 ・学習教材を用いることで付けられる力は何か ② 評価基準や振り返りの方法を明確にし、単元計画に位置付ける。 【評価基準】 ・何がどこまでできていれば、おおむね満足できる状況 (B評価) なのか ・どのように評価基準を学習者と作成・共有するのか ・いつ、どのように学習者が自己評価を行うのか ・努力を要する状況 (C評価) にいる学習者に、どのような手立てををするのか 【振り返り】 ・いつ振り返らせるとよいのか ・どのような振り返りの観点がよいのか ・振り返りで用いるとよい学習用語は何か ・どのような振り返りが書けたらよいのか 3 上記①②について、小学校教育研究会や大阪市総合教育センターと連携し、本市小学校の学力向上に資することを、いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>4月 【研究企画会】 研究推進のため年間計画立案 (役員会・推進委員会・研究担当者会) 5月中旬 ・ 昨年度までの成果と課題をふまえ、研究内容の焦点化をし年間計画を立てた。 ・ 役員会・推進委・研究担当者会で年間計画の共通理解を図った。 6月～8月 ・ 4委員会に分かれて研究テーマに迫るための研究授業指導案を検討した。 ・ 学習指導基本研究会 (小学校教育研究会主催) を実施した。 8月7日 ・ 夏季研修会 神戸常盤大学教授 山下 敦子先生による「教えるを手放したら、学びが始まる」の演題で、今後の国語科授業の方向性を国語部員へ講演会を行った。 9月～10月 ・ 学年委員会・書写委員会に分かれて、授業研究会・討議会・部内若手研修会を実施した。 ・ 11月11日の総研Iの公開授業に向けて、授業者への指導・支援 (プレ授業) を行った。 11月11日 ・ 総合研究発表会Iを全市教員に向けて、6学年+書写の公開授業を中津小学校で行った。 11月15日・16日 ・ 全国小学国語研究大会 (宮城大会) に参加し指導助言や他都市での研究の取り組みについて情報収集・情報交換を行った。 11月29日 ・ 実践国語研究会 (千葉大会) に参加し指導助言や他都市での研究の取り組みについて情報収集・情報交換を行った。 11月28日、12月5日 ・ 研究全体会①②を実施し、研究の成果・課題について情報共有を行い、総研IIに向けての研究発表の共通理解を図った。 2月6日 <del>総研研究発表会II「がんばる先生支援」研究発表会を、研究発表、研究協議を実施した。</del></p>			
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p align="center">＜検証方法＞</p>			
		日程	令和 8 年 2 月 6 日	参加者数	約 435 名
		場所	大阪市立中津小学校		
	備考				

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</b>」の育成および「<b>教員の資質や指導力</b>」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>○ 論理的思考力を働かせ、意識的に言葉を用いられる学習者を育てる。物事を体系的に整理したり、道理にそって筋道を立てて考えたりすることで、多面的・多角的に物事を捉えることができるようになる。</p> <p>また、言葉を何気なく、何となく使うのではなく、言葉の良さや価値を理解し相手や目的、場面や状況などに応じて意図的に用いるようにする。</p> <p>そのためには、学習の中で、「対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したり」して言葉に対する認識を深め、論理的に思考する課題や場を設定し、より身に付けていくようにする。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○ 「大阪市学力経年調査（国語科）」 「活用」3年～6年70点以上にする。</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>○ 「大阪市学力経年調査（国語科）」3年⇒82.9点 4年⇒82点 5年⇒72.8点 6年⇒76点のように、目標を達成することができた。</p> <p>○ 論理的思考力を働かせ、意識的に言葉を用いられる学習者を育てるために、物事を体系的に整理したり、道理にそって筋道を立てて考えたり多面的・多角的に物事を捉えたりすることができる、学習活動を全校で取り組んだ。</p> <p>○ 言葉を何気なく、何となく使うのではなく、言葉の良さや価値を理解し相手や目的、場面や状況などに応じて意図的に用いられるように、言葉にこだわった、授業づくりを行った。学習の中で、「対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したり」して言葉に対する認識を深め、論理的に思考する課題や場を設定し、より身に付けていくようにした。</p>
		<p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>○ 「総合研究発表会分科会Ⅱ（国語部）」へ多くの教員に参会してもらい、1年間の成果を全市の教員に広めることを通して教員の資質や指導力の向上に寄与する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>○ 「総合研究発表会分科会Ⅱ（国語部）」後のアンケートについて、肯定的に回答する教員の割合を95%以上を維持するにする。【R6 99.2%】</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>○ 「研究発表や講演会は、分かりやすいものでしたか。」の質問項目に対して肯定的に回答する教員の割合は、98.6%であった。また、「研究発表や講演会で得た知識や気づきは、今後の実践に活かすことができそうですか。」の質問項目に対して肯定的に回答する教員の割合は98.6%であった。以上のことから目標を達成することができた。</p> <p>○ 今後の教員の国語科における、授業づくりに活かすことができると考える。</p>
		<p><b>【見込まれる成果3】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>[検証結果と考察]</p>

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p>
		<p>「検証方法」</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>

6	研究全体を通した成果と課題	<p><b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>研究の成果…今年度はコロナ禍があげて対面での検討会や研修会を行うことができた。その結果、成果が実感できる実践研究になった。</p> <p>研究の成果…本年度「未来を創る学び手を育成する国語科学習」をメインテーマに「論理的な思考を働かせ意識的に言葉を用いる説明的文章の指導」をサブテーマとして研究を進めた。</p> <p>研究の視点はシンプルなものに改善した。</p> <p>視点1を「筆者のものの見方・考え方、主張、論理に着目した学習材分析を行い、単元を構成する」</p> <p>視点2を「評価基準や振り返りの方法を明確にし、単元計画に位置付ける」とし実践に取り組んだ。2学期には公開授業を4校の会場で行いたくさんの参会者の先生と学びあった。また2月7日には総研分科会Ⅱ</p>
		<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p><b>【成果〇】</b></p> <p>視点1 学習者が「学びのつながり」を意識して学習を進めるための単元構想</p> <p>〇 既習事項を生かしながら、学習者の実態、指導事項に応じた「付けたい力」を具体的に想定し、「付けたい力」に即した言語活動を設定したことで、学習者自身がこれまでの学習で身に付けてきた力を生かし、これからの学習を進めていくことを意識して、学習に臨むことができた。</p> <p>視点2 学習者が進んで課題解決に向かうことができる学習課題や発問の工夫</p> <p>読者</p> <p>「検証結果と考察」</p> <p><b>＜代表校園長の総評＞</b></p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>今年度もオンライン・オンデマンドでの発表は行わない総合研究発表会とした。関西学院大学初等部の森川正樹先生に授業ライブと座談会をしていただき、たくさんの先生方から「参考になった」との称賛の声をいただいた。また、経験の浅い先生方にたくさん参画していただき国語の授業づくりについて向き合うことができたことは、大阪市の若手の教員の授業力の底上げになったと自負している。今後も「楽しい授業づくり」を目指して国語科の実践研究の発信を積極的に行う。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>今年度も対面方式で総研Ⅰ（11/18）では、7本の公開授業を行った。国語科の授業づくりについて興味・関心をもっていただき、今後の授業の構想について意見交流をすることができた。</p> <p>総研Ⅱ（2/6）では、1年間の国語部の取り組みを今後の方向性について研究級発表の後、神戸常盤大賞 教授 山下 敦子様に「子どもが主役になる国語科授業」の演題でご講演いただいた。両日とも募集人数を以上の申込があり多くの方に、国語科の授業づくりについて向き合うことができたのは、大阪市の教員の授業力の育成になったと自負している。今後も、国語科授業の構想について積極的に発信していく。</p>